ご来館の皆さまへ

◉当館は新型コロナウイルス感染対策を講じた上で開館しております。ご来館いただく際は、感染予防にご協力いただいたうえでのご利用をお願い申し上げます。

◉企画展の開催は12月まで中止、講座・催し物は8月まで中止しております。

城博ニュースの内容変更について

現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止措置の影響により、企画展や講座・催し物の開催を中止しているため、今年度の城博ニュースは内容を変更してお届けいたします。

展示室開室スケジュール

●令和2年度の年間展示スケジュールおよび講座・催し物スケジュールは、当館のホームページにてご覧頂けます。
●企画展の開催は12月まで中止しています。

3F	令和2年 8月	9月	10月
総合展示室1 土佐藩の歴史	7月23日(木・祝)～ 第2期 特集「災厄の歴史」	10月5日(月)	第3期 特集「偉人の横顔」 10月16日(金)～12月14日(月)
総合展示室2 大名道具と土佐の文化	第2期 特集コーナー「能装束」 6月12日(金)～ 8月17日(月)	8月28日(金)～ 第3期 特集コーナー「秋のモチーフ」	11月3日(火・祝)

講座・催し物スケジュール

新型コロナウイルスの感染拡大防止措置による開催準備への影響や会場の使用条件等により、現在講座・催し物の開催を見合わせています。何卒ご理解頂きますようお願い申し上げます。

今年度の城博講座（通年）	8月までのその他の講座・催し物
全回中止	中止

開催中止となった講座・催し物については、ホームページやSNS、館内配布物にて講座内容に関する情報を随時ご紹介していますのでぜひご覧ください。

秋以降の講座・催し物の開催予定は下記のとおりです。

9月	◆古文書通信講座（古文書の文法）募集　高知県在住の方対象　※5月に行ったものと同じ内容です。 中止 ◆秋のミュージアムコンサート　「高知城秋の夜のお城まつり」中止のため当催しも中止します。
10月	◆お月見の会
11月	◆子どもむけ博物館バックヤードツアー ◆お城下文化の日 ◆高知まちゼミ　※主催者との協議によって開催または中止を決定します
12月	◆冬の夜間特別企画
1月	◆お正月特別イベント「博物館に初もうで」 ◆お正月の会
2月	◆外国人のための文化講座
3月	◆お城下でみる土佐国 ◆開館記念日特別イベント「城博の日」

●今後の新型コロナウイルス関連の状況により、日程変更または中止となる場合があります。
●各行事の開催日や詳細は当館のホームページ、チラシ、SNS、また次号以降の城博ニュース（次号は10月初旬に発行予定）でお知らせいたします。（左記のほか、「地域出張講座」と「地域散策会」も開催を予定しています。（開催時期が決まり次第お知らせいたします。））

博物館で楽しもう!!クイズラリー　8.1(土)～8.31(月)　小学生対象

展示室をはじめ館内にちりばめられたクイズを解きながらキーワードを集めるクイズラリー。参加者全員に博物館のオリジナルグッズをプレゼント！

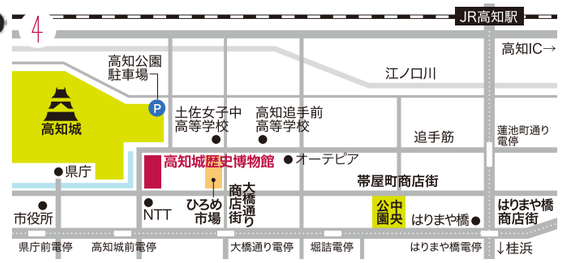
開館時間　9:00～18:00（日曜日は8:00～18:00）
※展示室への入室は閉館の30分前まで。

休館日　年末　［12月26日(土)～12月31日(木)］
※展示室の休室スケジュールはホームページをご覧ください。

観覧料
◆500円（400円）　※（　）は団体20名以上の料金。
◆企画展開催期間中 …… 700円（560円）
◆年間観覧券 …… 2,000円
◆高知城とのセット券（有効期限は当日限りです）
〈当館企画展開催期間中〉900円　〈その他の期間〉740円
◆高校生以下は無料。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者（1名）は無料。
※高知県・高知市長寿手帳所持者は無料。

令和2年12月まで、企画展の開催を中止しております。

交通アクセス
◆お車をご利用のお客さま
高知自動車道高知ICから約15分。
一般来館者用の駐車場はございません。周辺の有料駐車場をご利用ください。
※障害者用駐車場（2台）あり。
◆JRをご利用のお客さま
JR高知駅からとさでん交通路面電車（はりまや橋方面行き5分）
はりまや橋下車、乗り換え（鏡川橋または朝倉、または、いの方面行き5分）、高知城前下車、徒歩3分。



高知県立
高知城歴史博物館
〒780-0842　高知県高知市追手筋2-7-5
TEL.088-871-1600　FAX.088-871-1619
高知城博　検索

発行日／令和2年(2020)8月5日　編集・発行／高知県立高知城歴史博物館

高知県立 高知城歴史博物館
Kochi Castle Museum of History

OHAKU NEWS

Volume 09

総合展示にご注目。

土佐藩主山内家資料の魅力

先人たちが守り受け継いできた、土佐の歴史と文化。

ジョーハクの主役は収蔵資料！土佐藩主山内家資料にご注目ください。

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大防止措置の影響により企画展の開催を中止しているこの期間を、高知城歴史博物館設立の原点に立ち戻り、あらためて山内家資料の魅力発信に取り組む期間としたいと考えています。
博物館の主役は収蔵資料の数々。高知城歴史博物館の核である土佐藩主山内家資料は、400年に渡って大切に受け継がれてきた県民共有の財産です。江戸時代の日本の全体像から山内家の治めた土佐藩の政治や社会、かつて1000にもおよんだとされる土佐の村々の事件や出来事、産業、または華やかな大名道具に江戸の美術、さらに土佐の文化まで、山内家資料をひもといていくとまだまだ私たちの知らないような歴史文化の世界や魅力が見えてきます。当館には企画展の他に山内家資料をいつでもご覧いただける総合展示室があります。もちろん山内家資料の世界を体感していただくには、展示室でホンモノの資料をご覧いただくことがいちばんですが、本誌の他にホームページやSNSでも山内家資料の魅力や見どころを発信していますので、ぜひチェックしてみてください。

ジョーハクの活動は山内家資料からはじまりました。

企画展はお休みですが

総合展示に注目！

歴史と美術、2室の総合展示で山内家資料の魅力を満喫

今年度、城博では年内開催の企画展をすべて延期し、1月からの再開を予定しています。
とはいえ実は歴史と美術、2室で展開する総合展示室も「常設」ではなく「今だけの展示」。年間5期、約100点の資料を全点総入れ替えし、人気資料や学芸員が見つけた知られざる資料を組み合わせ、いつも新鮮な展示を目指しています。夏の総合展示は、タイムリーでディープな内容に仕上がりました。

企画展休止期間中　観覧料500円　**1室のみ公開の期間は無料**

総合展示室1　土佐藩の歴史

総合展示室1では、5万点以上ある山内家伝来の古文書・歴史資料により桃山～近代の土佐の歴史を紹介。模型やタッチパネルで高知城などお城に関する知識も紹介。

第2期　災厄の歴史　10.5まで

流行病に対する経済支援

「新型コロナウイルス感染症」に関する経済対策等が課題となる今日、過去の流行病における経済支援に興味・関心はありませんか？
土佐（高知）での流行病における支援等について、展示資料からご紹介します。

疫病除けのお守り

◆江戸時代の疫病

寛文8年（1668）1月より、山田村（香美市）では百姓100余人が疫病にかかり、6月までに20人ほどが亡くなりました。土佐藩は患者に対して救助米を支給し、さらに、農作業ができない家の田植え等を支援しました。

◆近代のコレラ

大正5年（1916）には、8月頃より高知県内でコレラが流行し、12月末までに合計394人が感染、内237人（約6割）が亡くなりました。浦戸湾では感染予防対策によって漁業が禁止されたため、潮江村長は漁師たちを支援する救済金を募りました。山内家からも60円が寄付されています。

展示室では、流行病以外にも地震や火災、飢饉などに関する資料も展示しています。災厄に対する備え、復興や支援の歴史は、私たちに様々な教訓を示してくれます。

- 1.導入展示室
- 2.総合展示室1
- 3.総合展示室2
- 4.特別展示室 ※年内休室
- 5.土佐史探索室
- A.体験コーナー ※休止中
- B.音声ガイド用タブレット ※貸出休止中（お手持ちのスマートフォンで利用可能）

総合展示室2　大名道具の世界　土佐の文化

総合展示室2では、土佐藩主山内家に伝わった甲冑や刀剣、能面などの大名道具を展示。また、土佐の学者や文人の著作・書画を通して近世土佐の文化を紹介。

第2期　特集コーナー　能装束　8.17まで

「能装束」の観賞について

当室では、大名道具などの展示のほかに、日本美術を毎回違った角度から楽しんでもらえるように季節やテーマにあわせた特集をしています。今回は、能の舞台で使用される「能装束」の観賞について、唐織と縫箔を比較しながらご紹介します。

◆唐織と縫箔の違いは？

唐織と縫箔は、どちらも女役に使われることの多い衣装です。一見同じように見えますが、使われている技法は全く違います。唐織は、機織り機を使った“織り”ですべて模様を表現しますが、縫箔では、金箔と刺繍を併用して表現します。予め何本もの色糸を計画的に配置する唐織は、大変な手間のかかるものです。一方、織った後に装飾を加えられる縫箔は、自由度が高いものです。こうした違いから、縫箔よりも唐織の方が、格式が高いとされています。展示室で、技法の違いに注目しながら、観察してみてください。

唐織

唐織（拡大写真）

薄い金箔を紙にはって細長く切ってできた糸（金糸）や白・紅などの色糸が織り込まれて、模様が表現されています。

金地雪持南天団扇色紙模様唐織

縫箔

縫箔（拡大写真）

薄くした金箔を布に摺りつけてあり、金・白・紫などの色糸で刺繍され、模様が表現されています。

胴箔地鉄線団扇色紙短冊模様縫箔

8月28日からの特集（第3期）では、紅葉や菊、月などの秋のモチーフを取り上げる予定です。博物館ならではの秋をお楽しみください。

名品逸品

山内家資料の古文書をはじめとした歴史資料や歴代藩主のお道具など、6万7千点の土佐藩主山内家資料の中から、学芸員がオススメの名品や隠れた逸品をご紹介。

南海太郎の大太刀

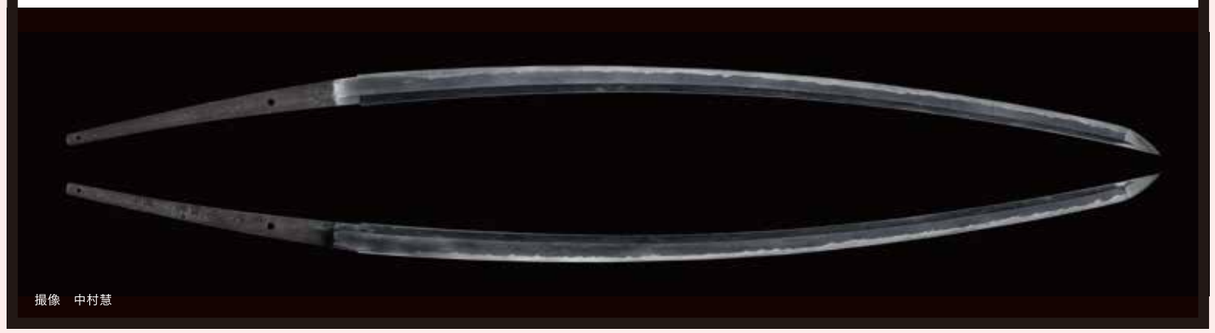
大太刀　銘（表）南海太郎錬之
（裏）弘化三年丙午二月日

制作年代：弘化3年（1846）　刃長136.5㎝　反5.8㎝

幕末に活躍した土佐出身の刀工、南海太郎朝尊（1804～65）作の大きな太刀。20年ほど前まで高知城で展示されており、「南海太郎の大太刀」として親しまれてきました。
全長は187.0㎝。左側の写真は実物大写真を持ってみたところ。大きさが伝わるでしょうか。実物の重さは4.7㎏、重ね（刃の厚さ）は最大で1.5㎝にもなります。大きいので刃文（刀の刃～白く見える部分～の模様）も見やすいです。
柄に近い方は、直線的な刃文ですが、徐々に波打って曲線となり、丸い波頭、腰のくびれた連続する曲線が複雑な変化を見せます。これを刀独特の表現で言うと「刃文は直ぐに焼出し、互の目刃となり丁子まじる」。呪文のようですね。でもたとえ呪文がわからなくても大丈夫。展示室で刀の白い部分と黒い部分の境目に目をこらしてみてください。その天の川のような輝きにきっと引き込まれますよ。

（学芸課　学芸員　尾本師子）

8月17日（月）まで、総合展示室2にて展示中。


撮像　中村慧

保存

展示を陰から支える資料保存修理室の仕事

美術品の修理には解体をともなう大がかりな全体修理に対し、局所の傷みに最小限の処置を施す部分修理があります。部分修理の目的は、傷みの負担を軽減し、安全に資料を展示できるようにすること。例えば掛軸の場合、切れた紐の新調や軽微な破れの補修などがあり、右の軸首の取り付けもその一つ。当作品は軸首が外れ、展示中に落下の危険があったため、伝統材料の膠で接着を行いました。城博ではこれら部分修理を自館で行っており、展示資料をよい状態でご覧いただくため、資料の保存と修理に日々取り組んでいます。

軸首の取り付けの様子（「枕慈童図」より）

学芸課　資料保存修理室長　田井東浩平

総合案内

展示室外でも模様替えしています。

総合案内の職員は窓口業務の他に季節に合わせた館内の飾り付けも行っています。端午の節句には高知ならではのフラフ、梅雨の時季には紫陽花、7月は七夕飾りなど、毎回、ご来館される皆さまへのおもてなしの気持ちを込めて、手作りを交えながら取り組んでいます。今後は山内家資料をモチーフにしたものも取り入れていく予定ですので、ご来館の際は、展示とあわせて館内のふとしたところで小さな発見をお楽しみください。

総務課　総合案内

やまぴょんとわか　#01　とのは「殿」じゃない

私達にとって藩主（大名）の呼び方といえば「お殿様」か「殿！」ですよね。やまぴょん達も普段はそう呼んでいますが、実は国持大名の尊称は「太守様」。土佐藩の古文書を見ても、代替わりの時に新藩主のことを「以後、太守様と呼ぶように」と家臣に指示しています。「殿！」と声をかけるのは、本当は失礼なので、お気を付けて。

やまぴょん（右）は城博のキャラクター。
兎耳形兜は4代土佐藩主・山内豊昌様にもらいました。
わか（左）と一緒に土佐の歴史や文化、山内家資料のことを勉強しています。